

輸出果実等の残留農薬分析に関するご案内

チューケン生活環境研究所 所長
松原 英隆（横浜国立大学博士：工学）

当試験室は、福岡県内およびその近郊のJA様や直売場様からの依頼を受けて10年以上残留農薬調査分析を行っております。

今回は、果実を海外に輸出する際の残留農薬分析についてご案内致します。

日本国内では600種類以上の農薬が使用されていると言われてはいますが、それら全てを分析するには莫大な時間と費用を要します。ところが、それぞれの果実に散布されている農薬の数は多くても50種類程度ですから、果実ごとに分析すると、短い分析時間と安価な経費で対応できます。

そこで、当試験室が提案したいのは、それぞれの果実ごとに、収穫3か月前から収穫直前までに使用される農薬をリストアップし、それらの農薬について分析する方法です。3週間程度の時間があれば、全ての使用農薬を分析することも可能です。以下に調査方法の概略を示します。

(1) 一斉分析

GC/MS一斉分析とLC/MS (Posi & Nega)一斉分析で対応します。

これによって、残留農薬の80～90%の把握が可能となります。

分析期間は2週間程度、分析費用は25,000円/検体を想定しています。

(2) 個別分析

一斉分析が困難な農薬の分析です。それぞれの果実に5農薬程度あります。これらについては、全検体の1/10～1/5を調査すればよいと思います。分析費は、農薬の種類によって難易度が異なるため、15,000～25,000円/検体です。

分析結果については、分析チャート等のバックデータも提出致します。

農薬の防除暦をお送りいただければ、当試験室で調査方法を組み立てますのでご連絡下さい。

連絡先：チューケン生活環境研究所
〒812-0863 福岡市博多区金の隈1丁目22-3
Email:matsubara@chuken-group.co.jp
[Tel:092\(580\)9900](tel:0925809900), [Fax:092-580-9901](tel:0925809901)